

eco 検定アワード2022 実施報告書



■ e c o 検定アワードとは

エコピープル (= e c o 検定合格者) が試験で得た知識をアクションに繋げていくための支援事業の一環として、他の模範となる環境活動を実践したエコピープルおよび複数のエコピープルからなるエコユニットの活動を称え、広く周知することを目的に実施している。

■ e c o 検定とは

環境と経済を両立させた「持続可能な社会」の推進に向けて、環境に関する幅広い知識を身に付けた人材を育成するために東京商工会議所が企画し、2006年から実施している検定試験。これまでのべ56万人が受験し、34万人のエコピープルが誕生している。

■ e c o 検定アワード2022実施概要

(応募期間) 2022年6月1日～2022年8月31日

(応募者数) エコユニット部門…14 エコピープル部門…7

(受賞者数) エコユニット部門…4 エコピープル部門…3

■ e c o 検定アワード2022 受賞者一覧

【エコユニット部門】

※同一賞内は50音順

(大 賞) イオンモール株式会社	・・・P3
(優秀賞) 株式会社エコリカ	・・・P4
(優秀賞) 大和リース株式会社	・・・P5
(優秀賞) 東芝エレベータ株式会社	・・・P6

【エコピープル部門】

(大 賞) 佐藤 秀樹さん	・・・P7
(優秀賞) 大沼 晴彦さん	・・・P8
(優秀賞) 下司 聖作さん	・・・P9

今回の受賞者の活動および過去の受賞者はこちらからご確認いただけます。

【エコピープル支援事業ウェブサイト】

<https://kentei.tokyo-cci.or.jp/eco/lp/people/index.html>





イオンモール株式会社

(所在地) 千葉県

(事業概要) 大規模地域開発及びショッピングモール開発と運営、不動産売買・賃貸・仲介



活動のポイント

「自然共生」「循環経済」「脱炭素」という多角的なアプローチから率先的に取り組みを実施。現在は全社員1,939名のうち、1,551名がeco検定に合格。

ABINC認証（いきもの共生事業所®認証）を新たに6モールで取得

イオンモールは環境に配慮し自然と調和した社会を目指す中でABINC認証（いきもの共生事業所®認証）取得モール数をKPIに設定しています。認証基準に対応することでリスク低減を図り、生物多様性保全につなげます。社内浸透を図るため2021年「いきもの共生事業所®推進オンライン講習会」を企業向け講習会として実施、2022年度より生物多様性保全を直営モールのISO14001環境に関する目標として設定し、進捗管理を実施しています。



サーキュラーエコノミー

サーキュラーエコノミーの考え方を取り入れた「サーキュラーモール」の構築をめざしさまざまな取り組みを進めています。具体的にはRethinkを始めとした6Rsの取り組みを推進しているほか、廃棄物をリサイクル可能な資源として活用できるよう、専門店従業員さまに基本18品目となる分別をお願いしています。2022年4月にオープンしたTHE OUTLETS KITAKYUSHUではバイオ式コンポスターで食べ残しを堆肥に変える運用を開始しました。



脱炭素社会の実現を目指した取り組みの推進

脱炭素社会の実現をめざし、太陽光発電設備およびEV充電器の設置などの省エネ活動を推進しています。2022年9月より自己託送方式による低圧・分散型太陽光発電設備「イオンモールまちの発電所」の稼働を開始しました。



エコユニット部門
優秀賞

eco検定アワード2022

株式会社エコリカ

(所在地) 大阪府

(事業概要) リユース・リサイクルインクカートリッジの開発、製造



活動のポイント

使用済インクカートリッジを回収して、再利用する仕組みを構築。営業部・業務部のeco検定取得率100%を達成し、現在は全社員20名のうち、15名がeco検定に合格。

カートリッジの回収

プリンターの使用済みインクカートリッジといえば、廃棄するのが当たり前でした。使い切ったカートリッジを再利用する方法がなかったため、使用済みカートリッジがゴミとして捨てられてました。この廃棄される膨大なカートリッジに資源としての可能性を見出し、エコリカは2003年、日本初の「使用済みカートリッジを回収し再利用する」仕組みを確立しました。現在に至るまで回収量、リユース販売量共に国内最大規模を誇ります。



場所・用途に合わせた専用回収ボックスのデザイン

売上連動型寄付活動

自社の事業ではカバーできない自然環境や生態系を守るための活動として、リサイクルインクカートリッジ、LEDを購入していただいた数量1個につき、1円を世界最大の環境保全団体のWWFへ寄付する取り組みを創業以来続けております。このことをユーザーに知っていただくことで環境貢献を身近に感じていただく取り組みを行っております。創業以来累計では今年の年末には1億円に到達する予定です。



就労支援事業への協力

大阪府より工賃向上計画支援業の委託を受けている「一般社団法人 エル・チャレンジ福祉事業振興機構」を通じ、大阪府工賃向上計画支援業の一つとして、大阪府内36か所の障がい者就労施設にて使用済みインクカートリッジの回収・仕分け業務について、協力をおこなっております。いずれも、就労・キャリアアップの機会を創出するための取り組みとなります。



エコユニット部門
優秀賞

eco検定アワード2022

大和リース株式会社

(所在地) 大阪府
(事業概要) 建設業

活動のポイント

環境学習を通じた社会の課題解決に繋がる「人財」育成に熱心に取り組み、グループとしてeco検定を推奨。現在は全社員2,391名のうち、95%の2,271名がeco検定に合格。



環境教育の実施

循環型リースビジネスを原点に「会社は社会の公器である」「何をしたら儲かるか」ではなく、人々が「何を必要としているかで事業をおこす」といった創業者精神を継承し、社会課題を解決する商品・サービスを提供しています。世界がめまぐるしく変化し、無数の課題に直面するなかで、未来を切り拓くのは「人」です。社会変化を捉え、そこから課題解決に繋がる価値を創造する「人財」育成の為に様々な社員教育を実施しています。



RE100の推進

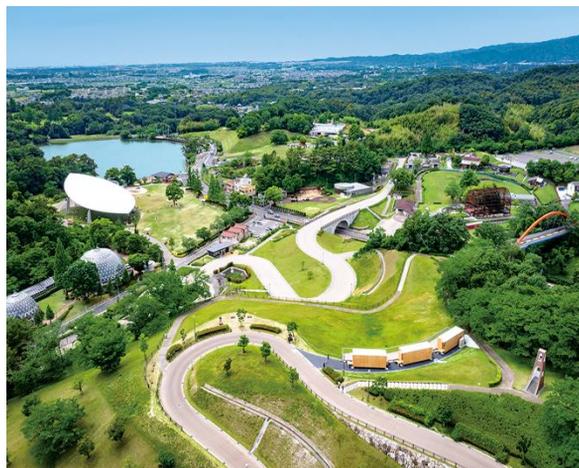
2018年3月に「RE100」に加盟し、2040年までに事業で使用する電力を100%再エネで賄うと目標設定を行いました。カーボンニュートラルへの取組みを加速させるため、2022年4月にRE100目標年度を「2023年度以降における購入電力を100%再エネに切り替える」に前倒し変更しました。新設の商業施設は、太陽光発電設備を設置し再エネでの受電を計画し、供給電力をRE100電力に切替える準備を行い、全量を再エネ化します。



公園事業を展開

都市公園における公民連携事業に参入しています。民間事業者が参入することにより、老朽化が進む都市公園の利便性、魅力の向上を図ります。また、地域の課題解決に向けて、官と民が一体となって地方創生のプロジェクトに取り組み、当社の強みを活かしています。

- ①公園関連事業実績19件
- ②アジア都市景観賞受賞
- ③公民連携で行政だけでは提供できない新サービスを提供
- ④地域の防災拠点として整備
- ⑤地域の活性化に繋がった





東芝エレベータ株式会社

ユニット名：東芝エレベータグループ

(所在地) 神奈川県

(事業概要) 昇降機に関する開発・設計および試験、検査、製造、据付、および撤去、昇降機の販売および販売後対応・昇降機の保守、修理および改造、昇降機、電気、空調、給排水衛生、防犯、防災各設備の監視、制御ならびにビル管理・建築物の設計・施工および管理



活動のポイント

脱炭素社会、循環型社会、自然共生社会を目指した環境経営活動の推進とともに、社員の自主活動としてeco検定を推進。現在は全社員5,661名のうち、1,769名がeco検定に合格。

eco検定普及活動

事業活動での環境貢献実現のためには、社員一人ひとりの環境意識高揚、知識深耕により事業活動の中に環境目線を取り入れることが重要と考え、2013年から社員の自主活動としてeco検定合格者の育成を推進、受験者サポートを行っています。毎年約400名が受験し「eco検定ランキング2020」で3位入賞、2022年3月時点の合格者数は1,770名と数多くの関係者が興味を持つ活動ができました。今後も継続した活動を継続して行ってまいります。



環境一斉アクション

環境意識向上と社員の連帯感の醸成を目的に全社員が拠点単位で地域に根ざした活動を行い、リレー競技のようにバトンを繋げる環境活動『TELC-BATON』（※TELCは弊社略称）を2014年から実施しています。活動はエコピープル・拠点責任者が主導し活動を行い、次の拠点にバトンを繋ぎます。2021年度は国内245拠点に加え海外（中国現法）も参画し、合計267拠点で実施しました。今後さらに活動範囲を広げ関係者一丸で推進してまいります。



絶滅危惧種の保護活動

姫路工場ではエコピープルが率先し、社員自らの力で広さ19.6㎡で水源を雨水としたビオトープ池を敷地内に建設しました。姫路市立水族館、東芝グループ会社と連携し、近隣の揖保川水系生息の兵庫県絶滅危惧種Aランク「カワバタモロコ」40匹を譲り受け保護活動を開始しました。生息環境を試行錯誤し整備したことで146匹まで繁殖しました。将来は揖保川への放流を地域の方々と一緒にできる明るい話題作りも目標（夢）としております。





佐藤 秀樹 さん

江戸川大学 社会学部 現代社会学科 専任講師

(主な活動エリア) バングラデシュ、千葉県松戸市、流山市



活動のポイント

大学等で環境やSDGsに関する講義を行い、eco検定を活用。松戸市やバングラデシュなど国内外で幅広い活動を展開する。

環境保全の当事者意識を高める授業の展開

大学、専門職大学や専門学校の高等教育機関4校、合計415人を対象にeco検定教科書の一部を取入れた環境保全やSDGsの講義を実施した。学生の参加意欲と当事者意識を高めるため、身近な生活環境からの環境教育プログラムの企画、SDGsや環境配慮行動をテーマとしたアクションプラン作成を通じた発表、現地での湿地保全を考えるフィールドワークやゲストスピーカーによる実践現場での環境保全の取組みへの理解を深める授業を展開した。



ローカルSDGsの普及

市民団体のSDGs推進メンバーとして参画し、千葉県松戸市でのSDGsに対する市民の意識向上とSDGsを松戸の市民社会の中で促進することを目的とした「松戸市民向けSDGs普及啓発事業」を行った。SDGsネットワークの形成、SDGsスタディツアー、SDGs基礎講座やSDGsフォーラムの開催、松戸版SDGs教材づくりに関する意見交換を通じて、ローカルSDGsを促進するために重要となる様々な関係者とのパートナーシップづくりを意識して行った。



地域資源の適切な利活用による

農業・農村の振興

バングラデシュ・シュンドルボン(The Sundarbans)地域の零細農村生産者(265世帯)を対象とした農畜林水産物の6次産業化による生計向上を図るための取組みを行った。環境NGOの専門家として参画し、事業全体の計画、農村生産者協同組合運営のための能力強化研修、農畜林水産物の商品開発・販売を拡大するための戦略、植林計画やその環境教育プログラム等、地域の環境保全と経済発展の両立を目指した国際協力による支援を行った。



エコピープル部門
優秀賞

eco検定アワード2022

大沼 晴彦 さん

栃木県地球温暖化防止活動推進員
うつのみや環境行動フォーラム再生可能エネルギー部会
(主な活動エリア) 栃木県宇都宮市



活動のポイント

地球環境保全をテーマとした出前授業を継続的に実施。エコピープル活動に地域の幅広い関係者を巻き込むことで、活動を拡大。

環境出前授業活動

2019年から小学校の高学年生を対象に「地球温暖化と再生可能エネルギー」を主なテーマとした環境出前授業を実践しています。授業は講義と再生エネ模型による発電の実験とソーラーカー等の模型工作が主な内容ですが、4年目を迎える今年度は19か所からの授業申し込みがあり、受講生も今年度計約800名になります。授業を通じて地球温暖化防止活動の重要性と身近な対策行動の必要なことを学んでもらっています。



座学研修の講師委嘱

栃木県の地球温暖化防止活動推進員の座学研修講師を委嘱されました。テーマは伝え方等の効果的な啓発方法についてでしたが、出前授業の実例を使って五官に訴える実験や工作体験の重要性及びネット情報利用の手法紹介、それからイベント活動での集客等について、行政や学校との連携の大切さ等活動のポイントについて実例を引用して伝えました。



エコピール部門
優秀賞

eco検定アワード2022

下司 聖作 さん

おおさかA T Cグリーンエコプラザ・阪南大学・関西学院大学
・とよなか市民環境会議アジェンダ21
(主な活動エリア) 大阪府



活動のポイント

SDGsの認知度100%を目標に掲げ、eco検定で身に付けた基礎知識を活かし、豊中SDGs勉強会の立ち上げや産学官連携大学講座を開催。

豊中SDGs勉強会

SDGsとは慈善事業ではなく、社会課題解決を本業として業績に結び付けることですが、中小企業にとって、その紐づけをすることは容易なことではありません。そこで中小企業のSDGs活動を指導・支援・コーディネートする「豊中SDGs勉強会」を立ち上げました。勉強会の主役はあくまでも参加事業者であり、私は参加事業者が取り組むべき社会課題を明確にして本業に紐づけて行く作業や、業績に結び付けていくことのお手伝いをしています。



産官学連携大学講座

環境問題に取り組む若者を育てたい想いに賛同してくれた11企業2団体1行政を、阪南大学の講座にゲストとして招聘しています。学生は様々な業界・業種の取り組みを知ることで知見が広まり、事業者は、将来世代へ2030アジェンダをコミットしなくては行けないので、事業のリアリティを改めて見直すなど自社の変革に繋がっています。事業者は下司個人と繋がっているため、他大学も下司と契約するだけで、このプログラムを使えます。



異業種コラボ

中小企業は交流をする機会が少なく、私はeco検定啓発活動を通して色々な業界と繋がっているため異分野・異業種の事業者を紹介し、掛け合わせて、コラボをコーディネートしています。代表例として、学生起業の株式会社ゲームーズと、とよなか市民環境会議アジェンダ21の合同食品株式会社と、豊中SDGsネットワークのドローネクス株式会社のコラボをコーディネート。商談成立に漕ぎつけました。



「eco検定アワード2022」審査委員会

(敬称略・順不同)

委員長	鶴田 佳史	大東文化大学 社会学部社会学科 教授
委員	井上 由美子	環境省 大臣官房総合政策課 環境教育推進室 室長補佐
委員	猪又 陽一	アマタ株式会社 チームマネージャー
委員	神田 修二	いであ株式会社 副社長執行役員・国土環境研究所 生物多様性研究センター長
委員	黒柳 要次	株式会社パデセア 代表取締役
委員	吉田 広子	株式会社オルタナ オルタナ編集部 副編集長
委員	大下 英和	東京商工会議所 産業政策第二部長